

2018 船橋市ディサービス連絡会研修会

防災講話

3.11 東日本大震災

地域包括・居宅からの振返り

★印は、配布資料にはございません。

株式会社ツクイ 東北圏仙台地区
地域連携担当 今井 優

●目次

1. 自己紹介
2. 地域包括支援センターにて
被災した際の振返り
3. 居宅介護支援事業所にて
被災した際のエピソード
4. まとめ

1. 自己紹介

エリアサービス コーディネーターとは??

私たちの役割

地域における医療機関・行政機関・地域包括支援センター・居宅介護支援事業者の皆様からの組織的相談窓口として、ツクイの魅力やサービスの紹介、顧客ニーズに合った事業所および各機関との橋渡し役となり、社内外と連携を図りながら、魅力あふれる地域包括ケアを確立することです。



私たちの具体的な業務

医療機関、行政機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者の皆様からのご相談窓口

提携医療機関を含む関係機関と、他事業所を含むエリア内事業所の情報連携ネットワークの構築

お客様のニーズに適合した事業所の情報提供、また迅速に利用開始へ繋げる支援

地域の皆様のニーズに即した研修会・勉強会の企画、運営等

仙台地区担当の
エリアサービスコーディネーター

いまい 今井 ただし 儀

地域の皆様に安心して笑顔で生活していただけよう、精一杯頑張ります！どうぞ、お気軽にご連絡ください。

経歴・資格
●社会福祉士



ご質問・ご相談はこちら

所属事業所

ツクイ若林七郷 〒984-0038 仙台市若林区伊在字白山前3
FAX:022-390-0382

事業所固定電話

022-390-0380

[営業日] 年中無休 [対応時間] 8:30~17:30

コーディネーター直通電話

080-5944-0953

*つながらない場合は、事業所固定電話へおかけ下さい。

株式会社ツクイ

◎株式会社ツクイは東証一部上場企業です
[本社]〒233-0002 横浜市港南区上大岡西1-6-1 TEL:045-842-4115(代表)
▼ホームページもご覧ください
<http://www.tsukui.net> ツクイ 検索



私たちの具体的な業務



医療機関、行政機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者の皆様からのご相談窓口



提携医療機関を含む関係機関と、他事業所を含むエリア内事業所の情報連携ネットワークの構築



お客様のニーズに適合した事業所の情報提供、また迅速に利用開始へ繋げる支援



地域の皆様のニーズに即した研修会・勉強会の企画、運営等

多くの方々の安らぎと幸せを願って

ミッション：地域価値の創造を目指す！

2. 地域包括支援センター

社会福祉士2年目での被災

* 河原町地域包括支援センター

→仙台市から委託を受けて、
株式会社ツクイで運営。

*若林営業所はこんなところです。
スライドをご覧ください。

*震災時：阪神淡路大震災時の高架橋の倒壊が
真っ先に想い起されました。



福祉に・ずっと・まっすぐ
ツケイ

ツケイ若林

訪問介護

介護に関するご相談はお気軽に ☎ 022-262-8288





①ツクイ若林（ヘルパー専門職集団）

→訪問介護、河原町地域包括支援センター

②ツクイ若林七郷（デイサービスとケアマネジャー）

→通所介護（60名）居宅介護支援

③ツクイ・サンシャイン仙台（夢ケアの実現）

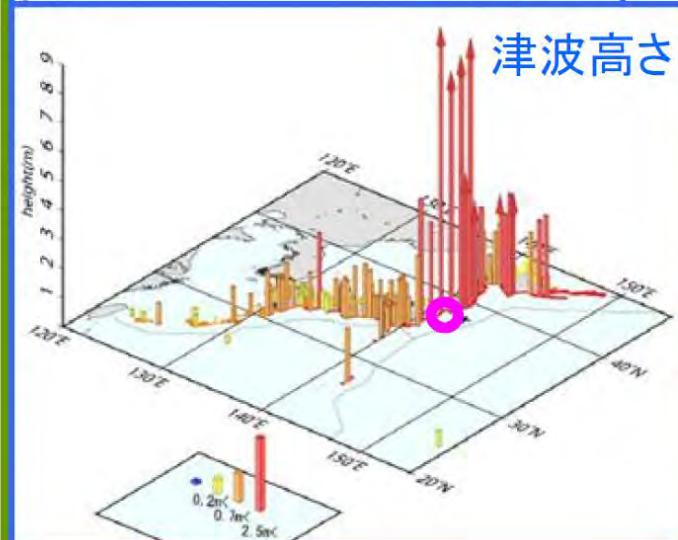
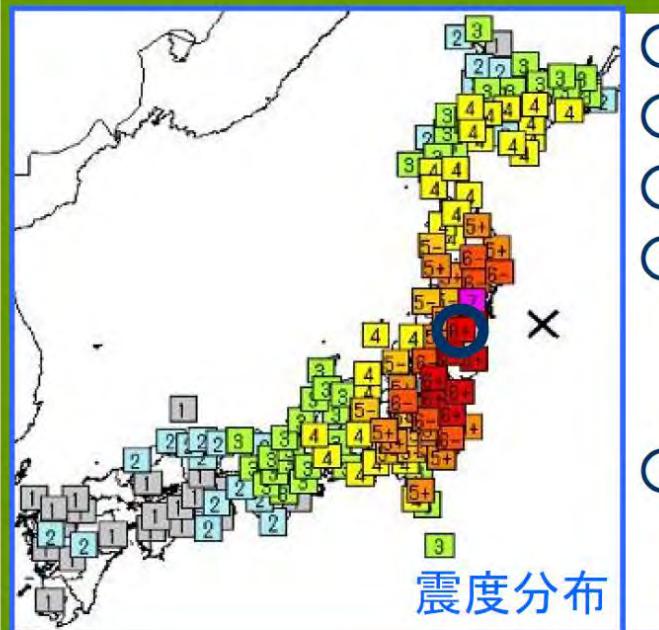
→介護付き有料老人ホーム（48室）

④ツクイ萩野町（デイサービスとケアマネジャー）

→通所介護（35名）居宅介護支援



1 地震概要(気象庁)



- 発生日時 平成23年3月11日 14:46ころ
- 震央地名 三陸沖(北緯38.1度、東経142.9度)
- 規模 マグニチュード9.0(暫定値)
- 市内震度 震度6強 宮城野区
" 6弱 青葉区、若林区、泉区
" 5強 太白区
- 津波 3月11日14:49
太平洋沿岸に大津波警報発令
津波の高さ 仙台港 7.2m(推定値)
(3月13日17:58 津波注意報 解除)

※本地域での最大余震(4月7日23時32分頃)

マグニチュード7.1 宮城県沖
震度6強 宮城野区
震度6弱 青葉区・若林区
震度5強 泉区 震度5弱 太白区

1

2 沿岸部の被害状況(1) ★

仙台港付近



宮城野区蒲生付近



仙台市災害対策本部 防災会議資料より引用



2 沿岸部の被害状況(2)

宮城野区岡田付近



若林区荒浜



(3月11日)

仙台市災害対策本部 防災会議資料より引用



4 宅地の被害状況



太白区緑ヶ丘



青葉区西花苑



青葉区折立



- ① 丘陵部地域の宅地で擁壁崩落・地すべり等が発生
(昭和30年代後半～40年代にかけて造成された団地)
- ② 被災宅地 約5,000世帯

仙台市災害対策本部 防災会議資料より引用



5 人的被害(仙台市内)

(1) 死者 891名 ※1,2,3,4,5(男性492名、女性399名)

※1 仙台市住所登録者以外の方を含みます(92名)

※2 避難先で亡くなられた方など災害関連死の可能性がある方のうち、地震から概ね1ヶ月以内に亡くなられた方を含みます(237名)

今後、災害関連死については認定を待つ必要があり変動します

※3 本市独自集計のため、警察発表の数値と異なる場合があります

※4 仙台市内で発見された身元不明のご遺体の、本市で引き取りしたご遺体も含みます。

※5 市外で被災し死亡が確認された仙台市住所登録者は含みません
(174名)(仙台市民の死者 971名(男性538名、女性433名))

(2) 行方不明者 30名(男性 17名、女性13名)

(3) 負傷者 2,271名 ※6(把握できたもののみ)

うち 重傷 276名

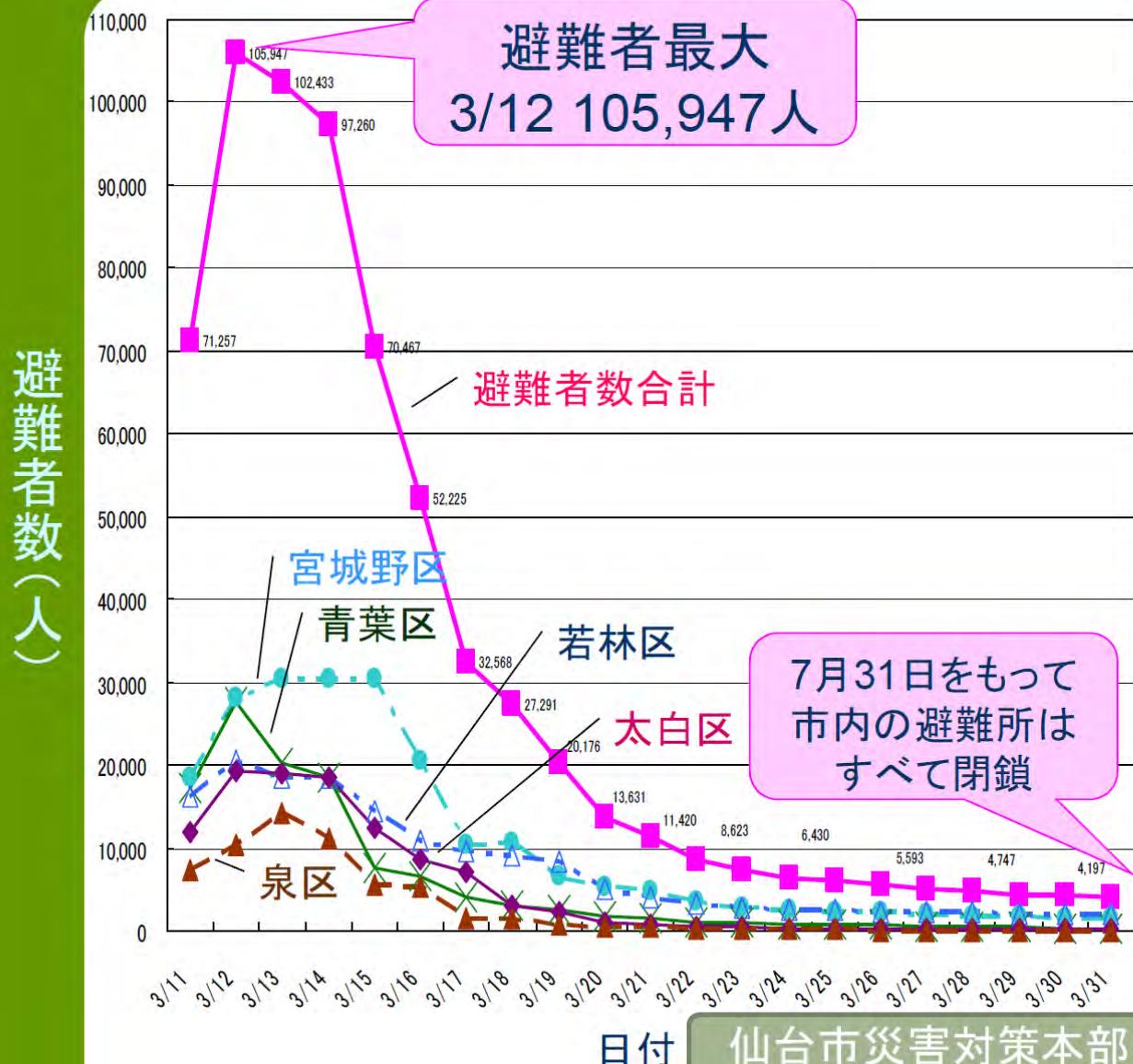
軽傷 1,995名

※6 4/7余震65名、7/25余震2名、7/31余震1名、8/19余震1名、

H24.8/30余震2名の負傷者を含みます (平成24年8月31日現在) 8



6 避難者の状況



	避難所閉鎖時期
青葉区	6月25日
宮城野区	7月31日
若林区	7月24日
太白区	7月9日
泉区	7月17日

7 建物被害(仙台市内)



平成24年8月26日 速報※

- ①全 壊 : 29, 912棟
- ②大規模半壊 : 26, 828棟
- ③半 壊 : 81, 714棟
- ④一部 損 壊 : 115, 803棟



※ 現在、建物被害調査中であることから、調査の進展に伴い数値は変化します。



8 ライフラインの被害と復旧状況(1)

- 電気 138万戸停電(宮城県)
仙台市災害対策本部は、3/12復旧、市内順次復旧
※市内は宮城野区、若林区の一部を除き復旧
(宮城県内では、6月18日をもって、復旧作業に着手可能な地域の停電はすべて復旧)
- 水道 市内各地で断水、減水。宮城県仙南・仙塩広域水道は供給停止
断水人口約50万人
→ **津波被害地区以外は復旧済み**
津波被害地区も順次給水開始中
- 下水道 南蒲生浄化センター: **津波被害で機能停止、簡易処理で対応中**
- 都市ガス 全供給停止(総戸数358,781戸)
→ ガス局港工場が津波により浸水
→ 3月23日 仙台オープン病院、市立病院に供給を再開
(新潟からのパイプラインを活用)
→ 3月25日 閉栓作業終了
→ **4月16日 全面復旧(津波被災地・避難勧告区域等を除く)**
※復旧隊 約4,200名(全国の都市ガス事業者3,700名 ガス局500名)



8 ライフラインの被害と復旧状況(3)

○鉄道

- a) 地下鉄 3月12日、13日 運休(市営バスでの代替輸送)
3月14日 富沢↔台原 再開(台原↔泉中央 無料シャトルバス代替運行)
4月 1日 黒松↔旭ヶ丘↔台原各駅間無料バス運行
4月29日 全線再開
- b) JR等 震災後 JR仙台駅 被害により立入禁止(3月21日 東西自由通路通行再開)
東北新幹線 4月25日 仙台↔福島 運転再開
4月29日 全線運転再開
在来線 4月12日以降、仙台↔近郊 **順次再開**
仙台空港アクセス線 一部運休(10月1日全線再開)

○市営バス

- 3月12日 約7割の路線で運行,地下鉄代替輸送実施
- 3月13日 主要幹線路線を不定期運行開始
- 3月14日 主要幹線路線で30分～1時間間隔で運行
- 3月28日～ **休日ダイヤで全便運行**
- 4月18日～ 始発便から通常運行再開

○仙台空港

- 津波により冠水
- 4月13日～ **暫定運行開始**(再開当初:羽田4往復・伊丹2往復)

○仙台港

- 岸壁・荷捌き地等損壊
- 4月 1日 一般船舶利用再開
- 4月 7日 自動車運搬船定期航路再開

2. 地域包括支援センター

社会福祉士2年目での被災

震災直後: まず、何をした？

- 上司(センター長)不在… (幸い、20分程度で帰所)
 - ✓ …上司不在時に、誰が指揮を執り、どうするか!? 役割分担。
 - ✓ …電話がつながるのか、連絡手段は複数あるのか？
- 事務所は、書庫が倒れ、書類が散乱…
 - ✓ …建物は安全か？ まずは、**自分の安全確保**が第一。
- 担当の利用者の**安否確認**、**被災情報収集**(ラジオ)。
 - ✓ …電話は通じづらい。そして、すぐに通じなくなる。
 - ✓ …上司の指示にて、自転車に乗って、安否確認開始

2. 地域包括支援センター

社会福祉士2年目での被災

すぐに、思ったこと。

それは、**家族のこと…**

生きているのか!?

仕事・利用者の安否確認

葛藤

家族の安否

自転車に乗って担当利用者の安否確認しながら、携帯で連絡。

つながらない！！

時間は定かではないものの、1時間以内程度で、

ショートメールで、妻：「何とか、大丈夫」私：「こっちも大丈夫」…

→すぐに、ショートメールも通じなくなり、その後4日目まで、どんな状況かもわからず、過ごす。

2. 地域包括支援センター

社会福祉士2年目での被災

震災直後～数日：まず、何をした？

- 概ねの安否確認後、区役所・避難所にて情報収集へ
※区役所・避難所は、野戦化…
- そんな時、ラジオから仙台新港で何十メートルの大津波という警報
が…　冗談でしょ？　どこまで水が押し寄せる!?
- テレビを見ることが出来なかった、今のようなスマホもない、
ある意味、すぐに悲惨な映像を見ることが、なかった。
- 当然、地下鉄は止まる。**帰宅困難者**。
自転車で暗闇の仙台市内を通って1時間かけて帰宅。

2. 地域包括支援センター

社会福祉士2年目での被災

震災直後～数日：まず、何をした？

- フィールドマネジャーや、本社からの指示。続々と。

お客様リスト等の、情報はPCの中。電源が入らなければ使えない。

【Point】

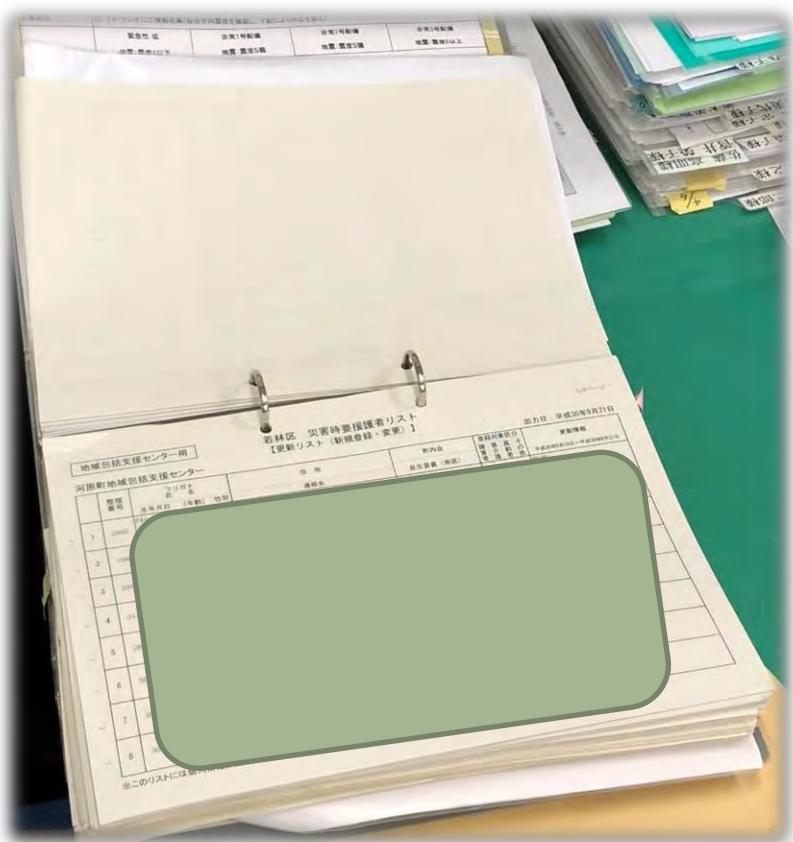
- 日頃の**定期訪問リスト**

圏域マップが役に立った！！

- 区役所から支給されるパン等の食材をもって、日々自転車で安否確認、サービス機関との連絡調整



定期訪問利用者台帳



要援護者基本台帳

2. 地域包括支援センター

社会福祉士2年目での被災

震災数日～1ヶ月：避難所回りと、連絡調整

- 各避難所を回って、避難者の情報収集。
- 介護予防体操の実施。
- 家族や、サービス機関との連絡調整。

【Point】

【Point】 平常時から、
サービス利用機関との**防災ネットワーク構築**が重要

- 予防を経ている、あるいは包括から居宅を紹介しているケースは
サービス利用機関を把握しているが、
- それ以外だと、わからない。
ショート利用、入所？ それともどこかで、被災…

2. 地域包括支援センター

社会福祉士2年目での被災

震災数日～1ヶ月：避難所回りと、連絡調整

- 各避難所を回って、避難者の情報収集。
- 介護予防体操の実施。
- 家族や、サービス機関との連絡調整。

【Point】

- 予防を経ている、あるいは包括から居宅を紹介しているケースはサービス利用機関を把握しているが、
- それ以外だと、わからない。
ショート利用、入所？ それともどこかで、被災…

平常時から、
サービス利用機関との**防災ネットワーク構築**が重要

2. 地域包括支援センター

社会福祉士2年目での被災

震災数日～1ヶ月：避難所回りと、連絡調整

【Point】

- 避難所、福祉避難所情報(衛生環境・空き状況)
- 入浴できる施設情報
- 利用開始のサービス機関の情報収集
- その他、フォーマル・インフォーマル情報

※どこで、炊き出しがあるのか。

※仮設・罹災証明手続き 等々

平時から、
サービス利用機関との**防災
ネットワーク構築**が重要

3. 居宅介護支援事業所

ツクイ若林七郷 ケアマネジャーとしての検討事項

- *震災直後の動き 出勤 OR 公休
- *避難所での対応
- *自宅待機指示(上司)と出来る範囲での活動…
- *安否確認・手段方法と、ガソリンの確保
- ***電源が必要な在宅療養患者・利用者への対応**
 - ※仙台往診クリニック 川島孝一郎先生より
被災時の応急対応について、紹介。
- *行政や福祉避難所の調整
- *お客様だけでなく、スタッフの**メンタルケア**



3. 居宅介護支援事業所

ツクイ若林七郷 ケアマネジャー エピソード紹介①

*「自宅待機指示」:公共交通機関がストップしているので、自宅から勤務先まで遠い場合、自転車で出社するわけにもいかず、上司から「自宅待機とするが、自分でできる範囲で行動」といわれた時、どうにも身動きがとれないCMにとって「自分だけ何もできていないんじゃないか」という不安があったという話もありました。

こういう震災時に勤務先が遠い者にとっては、確かに辛いかもしれません。 →検討:災害状況に応じた出社基準の策定の必要性

3. 居宅介護支援事業所

ツクイ若林七郷 ケアマネジャー エピソード紹介②

*「ケアマネとしての葛藤」:被災地にいるのだから、私たちCMも被災者でもあるわけですが、自分や家族のことを優先してよいのか、それともCMとして、お客様を優先するべきなのか、こうなってみると判らない…という意見がありました。

*「安否確認」:言葉でいうほど、実際は簡単なものではなかったです。今回のような大きな災害、ライフラインが停止した状態での安否確認の仕方を考えなくてはならないと思います。自営業所で今考えているのが、担当CMにとらわれず、営業所として担当しているお客様全てを、住所ごとに分けて、それをCMの自宅からの距離を考慮し担当を決め、その旨を事前にお客様に説明しておく…というものです。

3. 居宅介護支援事業所

ツクイ若林七郷 ケアマネジャー エピソード紹介③

*「電源の必要な医療関係器具」: 頻回な喀痰吸引が必要なお客様がいましたが、停電で吸引機が使えない間は、訪問看護師さんから、シリンジ(注射筒)にチューブをつけた物を吸引するようにと、指導を頂きました。吸引器のようには確り吸引できないにしろ、後日、「思いのほか痰が取れたよ」とご家族様からお話があった際には、チームケアの大切さを強く実感しました。

→事前の主治医・担当業者との確認。 次項資料参照。



3. 居宅介護支援事業所

*電源が必要な在宅療養患者・利用者への対応

参考資料

< 在宅医療：家庭における対処マニュアル >

1) 吸引器

(内部バッテリー付に変更)

2) 酸素濃縮器

定格出力 500W

3) 人工呼吸器

定格出力 200W

・50cc注射器 + 吸引チューブ

・足ぶみ式、手押し式吸引器

・ボンベ

・液化酸素ボンベ

・バッテリー

・発電機・インバーター

・内部バッテリー

・外部バッテリー

・アンビューバッグ

・発電機・インバーター

各家庭に
発電機
バッテリー
インバー
ター
を備える

4) 夜間の対応器材(懐中電灯、ラジオ、ろうそく、ライター等)

仙台往診クリニック 川島孝一郎先生より

3. 居宅介護支援事業所

ツクイ若林七郷 ケアマネジャー エピソード紹介④

*「メンタルケア」:後日、定期訪問をしていると、担当しているお客様やご家族様から避難している当時の話を聞くことがありました。職場に避難していたご家族様が、膝下まで水が引いたので、自宅の様子を見に行つた時、水に浮く、あるいは流されている遺体をかき分けるように歩いて、涙と吐き気が止まらなかつたそうです。

また、20代のお孫さんが「津波だ～」という声を聞き、一緒にいた80代の祖母の手を取り、家を出たそうですが、祖母は膝痛もあり、「あんただけでも逃げて！」と言われ、お孫さんは手を離して走っていき、振返った時には、祖母が津波にのまれてしまったという話もありました。

→担当利用者・家族様、被災体験のスタッフへのこころのケアも大切

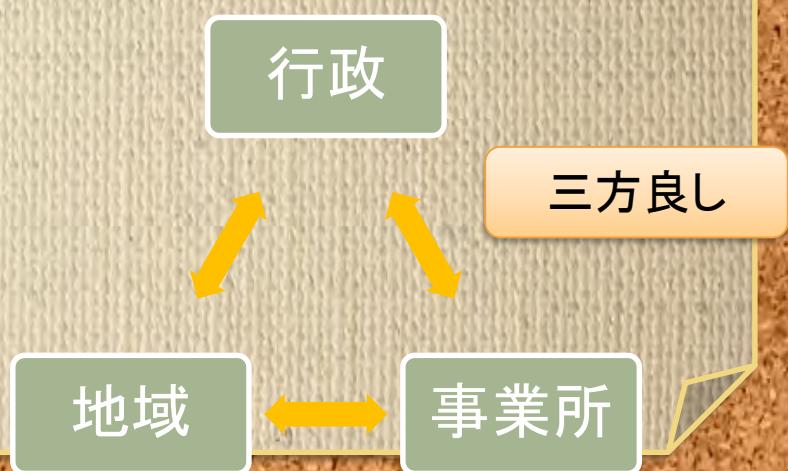
4. まとめ

サービス利用機関からの地域へのアプローチ

健康・運動、そして防災

地域ニーズの最たるもの

地域戦略の切り口の
一つとして活用



最後に

- 災害は、備えあっても、憂いあり ですが…
→防災計画＆BCPの策定を、
事業所内はもちろんですが、
- 事業所の壁を越えて、地域の中で、
住民とともに考えることが、大切だと感じています。
防災を考えることで、
地域づくり、地域での人財づくりにもつながります。
- 地域特性に応じた、防災・減災を、
皆さんで、一緒に考えて参りましょう。